

IFLA

ヤングアダルトへの 図書館サービス ガイドライン

2008年

国際図書館連盟児童・
ヤングアダルト図書館分科会編
日本図書館協会児童青少年委員会訳

Guidelines for Library Services for Young Adults

IFLA

ヤングアダルトへの 図書館サービス ガイドライン

2008年

国際図書館連盟児童・
ヤングアダルト図書館分科会編
日本図書館協会児童青少年委員会訳

Guidelines for Library Services for Young Adults

Guidelines for Library Services for Young Adults

International Federation of Library Associations and Institutions

IFLA Professional Report

IFLA ヤングアダルトへの図書館サービスガイドライン2008年 / 国際図書館連盟
児童・ヤングアダルト図書館分科会編 ; 日本図書館協会児童青少年委員会訳. -
東京 : 日本図書館協会, 2013. - 34p ; 21cm. - Guidelines for Library Services
for Young Adults の翻訳. - ISBN978-4-8204-1305-9

t1. イフラ ヤングアダルト エノ トショカン サービス ガイドライン 2008
a1. コクサイ トショカン レンメイ a2. ニホン トショカン キョウカイ
s1. 児童図書館 s2. 青少年教育 ①016.28

このガイドラインは、IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会が1996年に出版した版の改訂版である。

このガイドラインの作成・編集については、以下の方々にご尽力いただいた。

ヴィヴィアナ・キニヨネス氏（フランス）、イヴァン・チュー氏（シンガポール）、イングリッド・ボン氏（オランダ）、中心的役割を担ったパット・ミューラー氏（アメリカ）

目次

第1節	7
ガイドラインの目的	7
ガイドラインの対象	7
ヤングアダルト図書館サービスの使命と目的	8
ヤングアダルト図書館サービスの目標	9
第2節	10
サービス対象の定義	10
対象グループのニーズ	10
資料	11
サービス	13
プログラムと若者の参加	13
スタッフ	15
第3節	15
他機関との連携	15
第4節	17
企画および評価	17
サービスの評価	18
第5節	19
利用促進活動および宣伝	19
第6節	20
優れた事例	20
付録 チェックリスト	27
日本語版あとがき	34

第1節

ガイドラインの目的

当刊行物、『IFLA ヤングアダルトへの図書館サービスガイドライン』は、ヤングアダルトサービスおよび図書館の発展に資する基本原則を、世界中の関係者に向けて提供するものである。ガイドラインはまた、各国の図書館員に、サービスをする際の考え方の基盤を提供するものである。ガイドラインには、図書館がヤングアダルトの学習・情報・文化・娯楽等のニーズに、発達に応じた適切な方法で対応するための理論的かつ実践的な提案が盛り込まれている。このガイドラインは、図書館員、政策決定者、政策立案者、図書館情報学の学生、若者向けサービスの展開に関わる人々に活用されることを想定している。

ガイドラインの対象

- ・世界中の都市や農村のあらゆるタイプの図書館や自治体で働いている専門職の図書館員、補助的職員、ボランティア
- ・図書館の管理者と政策決定者
- ・専門的な教育者、図書館学校の学生

公共図書館の奉仕対象は、図書館ごとに異なっているため、優先事項やニーズはそれぞれに異なる。ヤングアダルト向けの特別な図書館サービスはすべての国で十分に確立しているとはいえないが、このガイドラインはヤングアダルト期が人生の中の特有な時期であるという考えに基づいて策定された。ヤングアダルトは、地域住民のうちの他の年齢層が受けるのと同等の図書館サービスを受ける権利があり、そのサービスは、できる限りヤングアダルト本人たちとともに創っていくことが望ましい。

ヤングアダルト図書館サービスの使命と目的

「公共図書館は、地域社会に存在する知識に通じる扉であって、個人と社会的集団が生涯学習を展開し、主体的に意思決定を行い、そして文化的発展を実現するために必要な基本的条件の一つを提供する。」

(UNESCO/IFLA 公共図書館宣言 1995年) (注1)

上記ユネスコ宣言は、公共図書館が教育、文化、情報に対して多大な影響力を持っているという信念を表明している。

「ティーンエイジャーの多くは、人生のこの時期に自主的な読書をやめてしまうことが多いので、とりわけこの年代には気を配る必要がある。彼らの心理的・情緒的発達について理解している図書館員やその他の大人たちは、彼らのめまぐるしく変わっていく興味に合うような幅広い本を多数用意して、ティーンエイジャーと本との出会いを促すべきである。」

(読者憲章 国際図書委員会、国際出版社協会 1992年) (注2)

図書館におけるヤングアダルトサービスの使命は、情報資源へのアクセスならびに、知的・情緒的・社会的発達のためのヤングアダルト特有のニーズに応える環境、の両方を提供することによって、個人が子どもから大人への移行に成功するように支援することである。

(注1) UNESCO/IFLA Public Library Manifesto, 1995 IFLA 公共図書館分科会ワーキング・グループ編『理想の公共図書館サービスのために』山本順一訳 日本図書館協会 2003 p.121

(注2) Charter for the Reader, International Book Committee and International Publishing Association 1992 *読者憲章の概要と部分訳は、日本障害者リハビリテーション協会情報センターのサイト (<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/easy/gl.html#furoku-3>) に掲載されている。(最終アクセス2013年3月23日)

ヤングアダルト図書館サービスの目標

- ・ヤングアダルト図書館サービスは、児童サービスから一般サービスへの移行を、ヤングアダルト特有のニーズに沿った形で提供するものでなくてはならない。
- ・ヤングアダルトは、彼らの学習・情報・文化・娯楽等のニーズに対応するサービスを必要とし、またそうしたサービスを受ける権利がある。
- ・サービスは、読み書き能力、生涯学習、情報リテラシー、ならびに楽しむための読書を促進するものでなくてはならない。

図書館がヤングアダルトサービスを展開する際の基本原則となる目標10点を以下に挙げる。

1. 図書館は、ヤングアダルトが図書館資料や情報源に自由にアクセスする権利および検閲されることなく自分のニーズに合った資料を選ぶ権利の尊重に関して、わかりやすい方針を確立し公表する。
2. ヤングアダルト図書館プログラムは、優良事例を参考にして効果的に運営する。
3. ヤングアダルトプログラムとサービスを支えるために、予算や人員等の資源を適切に配分する。
4. 図書館スタッフは、障害を持つヤングアダルトのための資料も含め、思春期の発達や、年齢にふさわしいヤングアダルト向け資料について精通している。
5. 図書館は、ヤングアダルトの生涯学習、読み書き能力、読書の動機づけ、読書力の向上を後押しするために、ヤングアダルトの興味を引く最新の資料を幅広く提供する。
6. 図書館は、ヤングアダルトの学習ニーズを支える資料を提供する。
7. 図書館は、ヤングアダルトを手助けして、彼らがすべての図書館資料に効果的にアクセスし、情報リテラシーやコンピューターリテラシー能力を身

につけられるようにする。

8. 図書館は、ヤングアダルトを対象とした行事や図書館サービスの計画・実施に、彼ら自身が携わる機会や、他人を支援するボランティアの機会を提供することで、彼らの成長を手助けする。
9. 図書館には、ヤングアダルトにとって魅力的で、彼らのライフスタイルを反映した特別なコーナーを設ける。
10. 図書館は、あらゆる局面で青年期の発達健全かつ成功裏に進むよう支援するために、当該自治体内の他の部署や団体と協力して活動する。

第2節

サービス対象の定義

対象となるヤングアダルトとは、子どもと大人の間にいる人たちと定義できるだろう。ヤングアダルトとみなす年齢の範囲は、各図書館が決定することができる。一般的にはヤングアダルトへの図書館サービスは12歳から18歳までを対象としている場合が多いが、文化的背景や国情によって違ってくる。年齢の範囲は、国や文化によっては、18歳以上にまで延長している例も見られる。対象グループには、人種、宗教的背景、文化的背景、知的あるいは身体的能力のいかににかかわらず、すべての人びとが含まれる。

対象グループのニーズ

文化的ニーズ：

図書館は、あらゆる人びとに開かれた場でなくてはならない。それゆえ異なる文化に対するニーズを尊重することが肝要となる。文化的ニーズは、それぞれに特有の文化の伝統を基盤に、社会状況の変化、文化の多様性や個人の人々の未来への展望の中から生まれてくる。

発達段階におけるニーズ：

ヤングアダルトへのサービスは、対象グループの代表者たちと共同で計画することが必須である。ヤングアダルトが資料、サービス、プログラムの企画・実施・評価などに積極的に参加できるようにしなくてはならない。また、彼らのやり方が、たとえそれまでの図書館の活動方針と異なっていたとしても、図書館側は敬意を払い、受容し、彼らの選択をすすんで認めることが必要となる。

若者の発達段階の研究を基に、プログラムとサービスを構築するならば、図書館はヤングアダルトが青年期から大人へとうまく移行できるような機会を提供できることになる。

資料

ヤングアダルトは多様なグループであって、興味、発達段階、ニーズ、能力のいずれにおいても大いに違いがある。したがって、図書館は彼らの要望にみあうようなさまざまな資料を提供しなければならない。障害を持つヤングアダルトや社会的・言語的少数者のヤングアダルトには、特別の配慮が必要である。文化的多様性を反映した資料とともに、多言語資料も蔵書に入れる必要がある。

ヤングアダルトに同世代のための選書や資料の展示に加わってもらうことは、図書館サービスの進展と、図書館利用の増加にもつながる。

マンガ、SF、ファンタジー、恋愛小説、ミステリーなどの人気ジャンルは言うに及ばず、最新のポピュラー音楽などを含む多様な資料形態が図書館を魅力ある場所にしてくれる。

印刷資料としては、以下のようなものがある：

- ・ 本
- ・ 雑誌
- ・ パンフレット
- ・ ポスター
- ・ コミックブック（注3）
- ・ グラフィックノベル（注3）
- ・ 点字や手話を含む多言語資料

非印刷資料としては、以下のようなものがある：

- ・ オーディオブック
- ・ 音楽用CD，カセット等
- ・ CD-ROMやCDI（注4）などのマルチメディア
- ・ コンピューターのソフトウェア
- ・ ビデオカセット，DVD
- ・ ボードゲーム，テレビ（コンピューター）ゲーム
- ・ コンピューターネットワーク，データベース

以上に挙げた資料媒体は、科学技術の変化に応じて、定期的に見直しを
する必要がある。

非印刷資料を求める利用者を十分に支援するためには、設備を用意しな
くしてはならない。（例：ゲーム機）

（注3）どちらも日本では‘漫画／まんが／マンガ’と表現されている。おおまかな区別は、コミックブックは雑誌の体裁，グラフィックノベルは単行本の体裁のものをいう。

（注4）Compact Disc Interactive CD-ROMの拡張規格のひとつ。

サービス

ヤングアダルトの要望を支えるためのサービスの定義については、先に述べたとおりである。以下に挙げるサービス例は、すべてを網羅しているわけではない。しかし、図書館がヤングアダルトサービスを始めようとする場合には基本となるものである。サービス計画を立てる時には、実践活動例、コンピューターの活用、プログラムの全容などを考慮することが必要となる。

推奨するサービス例

- ・誰でも自由にインターネットにアクセスできる環境の整備
- ・学習活動と個々の成長を支援するための参考情報の提供
- ・図書館利用において、個々の満足度と意欲の向上を支援するような図書館見学会の実施
- ・印刷資料と電子資料の両方を利用した識字と情報検索のスキルの訓練
- ・個人やグループに向けた読書案内
- ・あらゆる媒体の資料利用の奨励
- ・各種検索手段や調査を支援するための資料の提供
- ・他機関の紹介や図書館相互貸借制度など、必要に応じて自館以外の資料入手の促進
- ・該当地域内のヤングアダルトへのサービスの推進
- ・該当地域における他の情報やサービスの提供者との連携
- ・障害を持つヤングアダルト、十代の若い親、収容中の若者など、いろいろな理由で図書館に来ることができない人たちへのサービスの提供

プログラムと若者の参加

ヤングアダルトに効果的で意味あるプログラムを提供したいと思っている図書館は、プログラムのあらゆる段階において彼らが参加できるような方法

を模索しなくてはならない。企画の決定、計画案作成、計画の実行などへのヤングアダルトの参加は、最も推奨できるもので、若者の発達におおいに寄与できる。

ヤングアダルトの興味を引き、かつ役に立つ事柄については、彼らをエキスパートとして認めることが大切である。ヤングアダルトが設備・企画・サービスについて意見を述べるができるような場——例えばティーンの代表者会議——の創設を推奨するとよいだろう。また、地域の人たちに図書館の企画を紹介する役目を彼らに担ってもらうことも有効であろう。

推奨するプログラムの例

以下に挙げた企画リストは図書館が検討する場合の手引きであるが、企画案作成においては、地域の若者の興味と影響力を第一に考慮することが必要となる。

- ・ブックトーク、ストーリーテリング、本とヤングアダルトを結びつける活動
- ・読書会と図書館クラブ
- ・健康・職業・時事問題など興味をひく話題の情報提供
- ・作家・スポーツ選手・地域の有名人などの来訪
- ・音楽・芸術・演劇など文化的な催しの公演
- ・地域の機関・団体との共同事業
- ・ヤングアダルトによる演劇の上演・出版物・TV・ビデオなどの制作
- ・技術や創造的表現を教えるワークショップ
- ・読書討論会
- ・本の利用推進事業

スタッフ

ヤングアダルトとともに働くスタッフは以下の技と能力を持っていることが必要である。

- ・ヤングアダルトの発達段階における特別な要望を理解できる
- ・ヤングアダルトを個人として尊重する
- ・ヤングアダルトの文化と興味についての知識がある
- ・ヤングアダルトに関わる地域の他機関と協力体制を築く能力がある
- ・変化し続けるヤングアダルトの要望と興味に対応できる柔軟性がある
- ・図書館内で、また地域内でヤングアダルトの声を代弁することができる
- ・ヤングアダルトと一緒に働ける
- ・本やさまざまな種類の情報源などあらゆるメディアに精通している
- ・創造的思考能力がある

第3節

他機関との連携

ヤングアダルト図書館サービスの質は、地域の専門家やボランティア団体とよい関係を結んでいるか否かによって決まる。ヤングアダルトの文化・教育・社会的活動は協力して行うべきもので、地域の機関は、競い合うのではなく協力し合って取り組んでいくことが望まれる。多くの図書館員は、連携・協力の専門家として、ヤングアダルトのために必要な力量と知識を身につけているのである。

教育的ネットワーク

学校は、図書館がヤングアダルトにサービスを提供する際の最も重要なパ

ートナーのひとつである。多数の国や地域では、住民に図書館サービスを提供するのが学校図書館だけ、公共図書館だけ、場合によっては両者が合体した図書館だけということもあるだろう。学校と公共図書館の協働事業は、ヤングアダルトの要望と興味にみあった地域活動を促進する原動力となりうる。協働事業の実行を確実なものにするためには、何らかの正式の合意が必要となる。

文化的ネットワーク

文化的ネットワークを作ることは、多文化社会において、アイデンティティ確立のためにも、またヤングアダルトのニーズに沿うためにも効果的な方法である。公共図書館は、他の文化団体やヤングアダルトと一緒に活動するにあたり、以下のような文化的企画を立てて実行することができる。

- ・文学・音楽・映画等の文化事業
- ・ビジュアルアートの展示
- ・お祭り
- ・路上芸術を含むパフォーマンスアート（演劇、音楽、舞踏など）

専門家のネットワーク

図書館スタッフはヤングアダルトにサービスを提供する地域の他機関と協働事業ができるよう最大限努力しなくてはならない。図書館が社会事業、雇用、福祉、警察などの機関、ならびに若者に向けたサービスを行う機関と定期的に連絡をとっていると、新しい時代の風潮、進行する社会問題、地域の問題に気づくことになり、普段は図書館に來ないヤングアダルトと接する機会を得ることにもなる。その結果、協力して解決策を見つけることもできるし、若者の生活を改善することにもつながる。

第4節

企画および評価

図書館は、効果の上がる企画を立てるために、情報収集と目標設定に着手する必要がある。

情報収集は、企画および評価のための重要な手段のひとつである。図書館サービスのためには、国勢調査、学力調査、経済指標、社会指標など政府による人口統計的調査データを収集しなくてはならない。こういったさまざまな情報を得ることで、図書館はヤングアダルト層の特徴を把握し、プログラムとサービスについて幅広い視点で決定ができることになる。

ヤングアダルト向けサービスの企画を効果あるものにするには、理想的には3から6項目の長期目標を立てることが必要である。図書館は、ヤングアダルトの要求に応じてサービスを改善するためには、どの目標が効果をあげるうえで重要であるかを決めなくてはならない。予算はこれらの優先目標に合わせて立てなくてはならない。

常に長期的目標を達成することに重点を置かなくてはならない。そうすれば図書館は、目に見える成果を得られぬままに資源を多方面にばらまくのではなく、数少ない目標に向かって持続可能な成長を遂げることに集中することができる。例えば、ある図書館ではヤングアダルト向けのコレクションを構築して、魅力的なティーンズコーナーを備えたいと思うかもしれない。また別の図書館では、学習支援やティーンの読み書き能力の向上に力を入れたいと思うかもしれない。目標は、利用者のニーズはもちろん、ニーズに応えるために使える予算や人員のことも考えて決めなくてはならない。

図書館は、図書館のサービスや施設を利用していないヤングアダルトの意

見も求める必要がある。

サービスの評価

ヤングアダルト向けプログラムやサービスが成功したかどうかを判断するためには質と量の両方の検証が必要となる。ヤングアダルト向けサービスの有効性を評価したいと考える図書館は、以下に挙げる評価手法を検討するとよいであろう。

サービス評価の5つの基本的方法

- ・ヤングアダルト向け資料の一人当たりの貸出冊数
- ・ヤングアダルト向け資料購入に充てられる、一人当たりの支出額
- ・ヤングアダルト向け資料の一人当たり所蔵冊数
- ・回転率：ヤングアダルト向け資料の貸出冊数を蔵書冊数で割ったもの
- ・一人当たりのプログラム参加回数

追加のサービス評価方法

- ・ヤングアダルト人口の図書館来館率
- ・ヤングアダルトによる建物の利用状況
- ・人口に占める利用登録率
- ・館内での資料利用状況
- ・ヤングアダルト人口一人当たりのレファレンスサービス利用数
- ・レファレンスの正答率
- ・外部グループによる図書館訪問および図書館ツアー
- ・図書館員による外部グループ訪問
- ・プログラムやサービスの成功事例
- ・調査やインタビュー：ヤングアダルトサービスによって、態度、知識、スキル、などにどんな変化や進歩があったのかを測るために、ヤングアダルト

トたちに直接話を聞く。

- ・評価への利用者の参加
- ・国の基準（National Standards）の利用（もし手に入れば）

第5節

利用促進活動および宣伝

ヤングアダルトに図書館を宣伝することは重要な活動である。多くのヤングアダルトは、図書館で手に入る資料の範囲や価値を知らない。そこで、宣伝活動にはヤングアダルトにつながるさまざまな手段を取り入れることが望まれる。図書館プログラムとサービスに関する利用促進活動をするためのヒントをいくつか挙げる。

- ・ヤングアダルトが集まる映画館、カフェ、人気店などに広報誌を置く。
- ・広報誌や他の宣伝資料の作成にティーンのを借り、彼らの提案に従ってみることで、信頼を築く。
- ・図書館のヤングアダルト向けホームページでティーン向けサービスを宣伝する。
- ・ティーンが関心を持つテーマと図書館を結び付ける行事を主催する。
- ・ティーンが知識や能力を表明する機会を提供するコンテストや宣伝活動を行う。
- ・スポーツや有名人、恋愛、ファンタジー、最新流行、音楽といったティーンの文化や関心事を理解していることを示す宣伝資料を作る。
- ・学校や他の組織など地域の協力者を通してヤングアダルトが広報誌を入手できるようにする。

第6節

優れた事例

このガイドラインを活用する際の参考として、優れた取り組み事例を以下に挙げる。各図書館は、サービス対象となるヤングアダルトにとって最も有益なプログラムやサービスを選択しなくてはならない。ヤングアダルト独自のニーズや特徴は地域によってそれぞれ違い、各図書館や地域で活用できる資料や人材も違うため、どのようなサービスを提供するのかは、それぞれの図書館によって異なってくるであろう。

宿題支援<デンマーク>

デンマークの図書館は、デンマーク語を母語としないエスニックグループのヤングアダルトのニーズに応えるため、文化省および難民省と協定を結び、図書館の機能強化を目指している。「ホームワークカフェ」と呼ばれるバイリンガルの生徒を対象とした宿題支援プログラムの設立にあたっては基金が創設され、その運営に活かされている。ボランティア講師の多くは地域の老人や若い学生で、語学力や学業の向上、そして同じ境遇にある生徒同士が出会う機会作りがプログラムの成果として現われている。

図書館クラブ<デンマーク>

デンマーク、オールボーの公共図書館は、若者がさまざまな社会活動に参加するために図書館へ足を運ぶようにと、さまざまなクラブを発足させた。各クラブは毎週決まった日に集まり、月曜日はWiiクラブ、火曜日は漫画クラブ、水曜日は宿題クラブ、そして木曜日は本や詩について話し合う読書クラブの日となっている。こうした活動が図書館員と若者との新たな関係構築につながり、そのことが、さらに価値ある新しい図書館サービスのアイデアへとつながっている。

青少年向けマルチメディア図書館<ドイツ, フランス>

ドイツ, ハンブルグで, マルチメディア環境とレジャー活動のためのスペースを備えた青少年図書館が創設された。図書館資料の半分は印刷媒体で, 残りの半分は, CD, DVD, オーディオブック, ボードゲーム, 雑誌, UMD (注5), Xbox (注6), プレイステーション, 任天堂DS, Wiiのゲームといった視聴覚資料で占められている。資料で扱われる内容は, 主に, 冒険, アクション, 漫画, ゲーム, 恋愛, 性, ストレス, 麻薬, ミステリーなどである。青少年図書館は, あらゆる種類のメディアの積極的な活用を通して, 読書の推進やメディアを扱う技術の向上を図っている。図書館は, かつてのプロペラ工場を改築した建物の中に設置され, 図書館以外にも, ケータリングのサービスや映画を上映するスペースも設けられている。

(注5) ソニーのPSPの記録媒体で, Universal Magnet Optical Discの略。CD, DVDより小型。

(注6) マイクロソフトが開発および販売を行った家庭用ゲーム機。

パリ郊外の町, ビロフレーでは, ティーンの文化や生活が受け入れられ賞賛されている。新しくできたティーンのためのマルチメディア図書館には, ウォークマンや携帯電話, MP3プレーヤー等から聞こえる音が満ちている。これらの機器は図書館で使うことが認められており, 携帯プレーヤーに音楽をダウンロードすることも法律上できるようになっている。ティーンと図書館員との間には固い信頼関係が築かれ, そのことがまた, ティーンが自ら進んで規律を守る態度を生むことにもつながっている。図書館は, 漫画のワークショップを主催したり, ティーンが製作した短編映画を特別スクリーンで上映することもある。

Teen Lock-in Night<フランス>

フランス, トロイでは, 15歳から20歳のティーンエイジャーが図書館に一泊して夜通しの文学イベントに参加した(大人による監督あり)。その夜の

テーマは、「本と映画」で、彼らは一晩中、短編映画を鑑賞し、作家、監督、脚本家たちと語り、最後には朝食を共にした。こうしたイベントは、ティーンの独立心、創造性、そして図書館に対する積極的な態度を育む。

視覚に障害を持つティーンへのサービス拡充<フランス>

フランス、ブルターニュ、サン＝ジャック＝ド＝ラ＝ランドにあるルシアン・エール図書館は、毎年、ティーンエイジャー向けの本に文学賞を授与しているが、2007年には、視覚に障害を持つティーンも選考に参加できるようにと、応募10作品の録音原稿を用意した。2008年には、プロの俳優が応募作品を朗読する予定であるという。録音された作品のいくつかは再生機器と共に地域のティーンに配布された。障害を持ったティーンが排除されるのではなく、むしろ価値ある存在として受け入れられ、図書館活動に参加するための手段を与えられている例である。

若者たち自身による若者支援<クロアチア>

クロアチア、リエカでは「本の虫カフェ」という、市内で最も長く続いているティーンの活動がある。活動は「ティーンにはティーンを／若者には若者を」というプロジェクトで、2001年、若い図書館利用者が同年齢の利用者を対象に企画立案した一連のワークショップとして誕生した。クラブはひと月に一度会合を持ち、本や読書について共通の興味を持つ14歳から19歳の読者が集う。毎月どの本を読んで話し合うかはグループで決める。メンバーたちは図書館に設置されている掲示板で会合やそのテーマ、お薦めの本について告知する。また、図書館のホームページで推薦する本を紹介したり、時にはラジオで書評を読む機会も与えられている。このクラブは若者が参加する活動のたいへん優れた例のひとつである。

クリエイティブパフォーマンス<クロアチア>

クロアチアのザダルでは、ティーンが自らの創造的な能力を発表する

「Svastarnica（スバスターニカ）」と呼ばれるプログラムが行われている。「open mic（オープンマイク）」（注7）というコンセプトに基づいた毎月のプログラムでは、ティーンが仲間の前で創造的なパフォーマンスをする。「Svastarnica」では、あらゆるティーンに、歌、踊り、演技、美術、ファッション、物語の創作などさまざまな分野の技能を発表する機会が与えられる。新しい世代のメンバーが加入し、クイズ、パントマイム、ジェスチャーパフォーマンス、その他のゲームなどがプログラムに加えられている。プログラムは、若者が自信を育み、楽しく過ごすために行なわれているが、図書館員もまた、リラックスして和やかな雰囲気の中、読書の推進を図ろうと、ヤングアダルト向け文学の話題を提供したりしている。

（注7）open micとは、舞台上に置かれたマイクを使って、誰でも自由に飛び入りでパフォーマンスをするスタイルのイベントのことである。

Staff Game Night＜アメリカ＞

ティーンにサービスするにあたっては、図書館員自身が彼らの文化やライフスタイルに親しむことが不可欠である。アメリカ、バージニア州リッチモンドの図書館では、最近、金曜の夜の仕事終わり、図書館職員が10代の若者たちと一緒にピザを口にしながら、ギターヒーロー、Wii、ダンスダンスレボリューションといったティーンに人気があるゲームと一緒に楽しんだ。図書館員は、こうしたゲームやWii用のオンラインアバター（注8）を楽しみ、ティーンへの文化への理解を深め、地域の若者とのつながりを持つこともできた。

（注8）アバターとは、2D/3Dのビジュアルチャットやワールドワイドウェブ上の比較的大規模なインターネットコミュニティで用いられる「自分の分身となるキャラクター」またはそのサービスの名称。多くは人型をしたコミカルな姿。

Teen Tech Week<アメリカ>

ロサンゼルス市のプエンテ図書館ではティーン向けのインターネット上でのイベントを実施する予定である。これは、Teen Tech Weekという、ティーン的生活にコンピューター技術がどういった役割を果たしているかを啓発する全米規模のイベントのひとつとして行われるものである。プエンテ図書館のプログラムでは、情報リテラシーに特に焦点を当て、データベースやオンラインで使用できる情報源を使って「scavenger hunt」(注9)を行い、正しい回答をした人にはギフトカードがプレゼントされる。さらにティーンは、ヤングアダルト向けコレクションに加える本をインターネットで購入することを通して、安全やプライバシーについての知識も身につける。金曜日は、Wii、ギターヒーロー、ダンスダンスレボリューションの競技大会の日にあてられている。

(注9) scavenger huntとは、与えられたリストに載っている品物を集めて回るゲームである。ここでは、与えられた質問の回答をさまざまなデータベースで探すゲームを指す(と思われる)。

ニューヨーク市フォレストヒルのクイーンズ図書館は「Tech Buddies」というプログラムを始めた。プログラムでは、テクノロジーについてもっと学びたいと願う年配の人がティーンとペアになり、安全やプライバシーについて学ぶ。プログラムでは、ポッドキャスト、短い動画、ビデオゲームなど、より面白く楽しい面に焦点を当て、Teen Tech Week期間中、ペアを組んだティーンと大人はWiiをしたり、軽食を食べたりして、10週間、さまざまなコンピューターを使った活動を行なう。

<日本のヤングアダルトサービス事例> *日本語版のみに記載。

「荒川区立図書館の10代向けプログラム」

区内の5つの図書館に10代コーナーを設けている。

おすすめ本のブックリスト（隔年）や、新刊書をメインにした読書情報紙（毎月）の発行をしている。2011年は新たに課題解決のためのパスファインダー（不定期）を発行した。

中学校へは、授業時間や図書委員会の活動時間帯に、ニーズに沿ったテーマでブックトークを行っている。

また、年に一度参加型のイベントプログラムを実施している。

2010年度は「怖い」をテーマに、地域の落語家による落語実演・参加者による朗読体験とともに、閉館後の薄暗い図書館であらかじめ指定された本を書架から探してくる「怪談」ツアーを行った。

● 荒川区立図書館ホームページ内YA ページ

<http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/ya/index.shtml>

< **English Translation of the aforesaid** >

Teen's program at Arakawa Ward Public Library

Special place for teens is provided at each five libraries in Arakawa ward.

Recommended book-list is published every two years and monthly magazine that carries information about new books in the main is also published.

We published irregular path-finder to solve a problem in 2011. We go to a junior high school to give book-talk about special theme according to needs during school hours or hours of library committee's activities.

We also put into practice an event program of workshop. We select “terrifying” as a theme and do live performance by a comic storyteller, reading aloud by participants and “a ghost story tour” in which participants searched for appointed books from the shelves of the gloomy library after closing hour.

- home-page of Arakawa Ward Public Library

<http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/ya/index.shtml>

(2011年3月10日受領)

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— *

付録

チェックリスト

このチェックリストを評価ツールとして用いるに際し、最上の結果を得るために各チェックボックスに、貴図書館の進捗状況に合致する年月を記載してください。例えば、「ヤングアダルトサービスを図書館の任務に含めること」について仮に2009年現在で貴図書館がまだ「未検討」であれば、未検討欄に「2009」と記入。

ヤングアダルトに対するサービスを行うために、すべての図書館は以下の項目を実施する。

1. 大人へのサービスと同等かつ重要なサービスとして、質の高いヤングアダルトサービスを提供することに努めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

2. ヤングアダルトサービスを図書館の任務に含めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

3. 図書館カードや特典がたやすく得られるようにすること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

4. 利用者が独力で図書館へ来られるように、文字と絵文字を用いた目立つ案内表示をすること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

5. 移動図書館や出張サービスも含むすべてのサービスを行う場所で、ヤングアダルト向けの資料に特化した場を確保すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

6. 「未来の読者を育てる」という目標に資するような、ヤングアダルト向けの資料を選択し、購入すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

7. ヤングアダルトにとって快適かつ安全で居心地がよい環境を用意すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

8. 年齢にふさわしい、コンピューターゲーム・印刷物・マルチメディア・情報機器や周辺機器など、さまざまな形態の、豊富な資料を用意すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

9. 能力にかかわらず誰にでも利用可能な資料やサービスを用意すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

10. プログラムを提供するだけでなく、レファレンスや読書案内ができる職員を確保すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

11. 職員が最新の教育を受ける機会や研修プログラムを保証すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

12. 資料を入手する際やサービスを計画する際には、図書館利用者の多様な言語と文化的ニーズを把握して取り組むこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

13. 年齢にふさわしいプログラムや活動を、利用者の多様なスケジュールに合わせて日に複数回、週に数日の割で実施すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

14. 地域社会の人々の注意を引くために、図書館サービスについての情報を載せたちらしを地域にくまなく配布すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

15. 地域社会のヤングアダルトのために最高の施設、サービス、機会を提供できるように、地域団体や機関と協力関係を築くこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

16. 親になるためのトレーニングやインターネットの利用、ドラッグなど、ヤングアダルトが興味を持つさまざまなテーマについて理解を深め、知識を広げるために、報告者や講師を招くこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

17. 公共図書館が豊かで居心地がよい地域社会の財産として価値があることを、ウェブサイトや口コミなどの方法を通じてその地域社会の言語で広報活動を行うこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

18. 気軽に参加できる集いや話し合いの場を持つことをヤングアダルトに勧めて、自信や問題解決能力が身につくようにする。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

19. 多様な文化的背景を持ったすべての利用者の要求に応えるために、地域の住民構成を反映した、有能かつ臨機応変に対応できる文化的に多様な職員の雇用に力を注ぐこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

20. 社会全体に対して優れたサービスを保証するために、職員の責務を規定する評価ツールや基準を持ち、必要な専門的人材育成の機会を提供すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

21. 公共図書館のサービスを無料で提供するために、核となる財源の確保に努めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

22. 世界の優良事例に遅れを取ることなく、優れた図書館となることに役立つ新しいアイデアがあれば、これを適用すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

日本語版あとがき

2009年に出版した『乳幼児への図書館サービスガイドライン』につづいて、このたび『ヤングアダルトへの図書館サービスガイドライン』を日本図書館協会の出版物として発行することになりました。

英語版には日本の優れた事例を入れておりませんでしたので、今回の日本語版には日本の事例として荒川区での取り組みを入れました。今後日本各地の図書館の皆様がヤングアダルトサービスを実施なさる際に活用していただけたらと願っております。

ご一読のうえ、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。

2013年6月

翻訳チーム：浅見佳子・小林直子・高橋樹一郎・依田和子

IFLA ヤングアダルトへの図書館サービスガイドライン 2008年

2013年7月20日 初版第1刷発行

編者 国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会

翻訳者 日本図書館協会児童青少年委員会

発行者 社団法人 日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

Tel 03-3523-0811(代) Fax 03-3523-0841

印刷所 (株)丸井工文社

JLA201312 Printed in Japan

ISBN978-4-8204-1305-9

本文の用紙は中性紙を使用しています。

※翻訳・刊行については国際図書館連盟（IFLA）の許諾を得ています。

JLA201312

ISBN978-4-8204-1305-9